

大和市議会議員

町田ひろふみ レポートVol.1

「大和市議会 令和5年第2回6月議会と第3回9月議会」が行われ、一般質問を行いましたので、質問や答弁内容を一部編集し、市政報告として皆様にお届けさせていただきます。

令和5年4月に行われた大和市議会議員選挙にて初当選いたしました町田ひろふみでございます。大和市議会議員として市内の様々な問題や課題に取り組むために、市民の皆様から寄せられるご意見やご要望を集約し、市政発展のために力を尽くしてまいります。

皆様のご期待に応えられるように一層努力を重ねてまいりますので、引き続きご支援いただき、政治活動にご理解を賜りますよう心よりお願い申し上げます。



市長の政治活動と広報活動 公私混同の疑念を与えない実施方法を。

質 問

政治活動と広報活動の線引きは大変難しい。令和4年11月に行われた「市長が語る大和市」は表向きは市の施策の広報活動とのことだが、実際には前市長が「私が実現させました」などの自身の実績をアピールする場のように感じた。市の予算を使った市政報告会を自身の政治活動として利用する意図があったとしたら、それはあってはならないと考える。
また前市長は市の職員とともに駅頭活動をされていた。これも「市長が市職員を使って政治活動をしている」という市民の声も聞く。
本年4月の小田急線車内への中吊り広告掲示も選挙前という極めてセンシティブな時期であり、市長選挙の結果にも影響を与える可能性もあった時期だった。
市民に公私混同の疑念を与えないような実施方法はできなかったか？



答 弁

市民の皆様が市政を身近に感じ、市政運営への理解を図ることを目的として行政組織のトップである前市長自らが行っていた。他市では市長は自分の身銭を切って、後援会・支援する方で構成して実施するのが主であった。
そうしたことを参考に私は「市長が語る大和市」を市の予算を使った行事として実施はしない。ここで中止することを明言する。今後は自身の後援会、政治活動として実施をする。また、駅前での広報活動については私は個人的に1人で立つか、支援者と立つ。
職員には市民サービス、市民の幸せのために一生懸命業務を頑張ってもらえればと思う。

要 望

「今までと同様の形式での実施はしない」と明言をしたことを高く評価する。公費での実施という形式ではなく、個人や後援会活動として行うことに対しては政治家としての自由な政治活動であるので、こちらはぜひ継続していただければと思う。
電車での中吊り広告や駅頭での広報活動については市民の方々に「税金や市の職員を使って選挙に利用している」という疑念を与えないように、今後は選挙日程を含めて多角的な視点から時期と内容を慎重に検討して実施するよう要望する。

町田ひろふみの
6月議会での一般質問の動画を
ご覧いただくことができます。





障がい者の方の就労支援と 企業側の障がいへの理解促進を。

質問

軽度の知的障がいを持つお子さんを持つ地元住民の方から相談を受けた。その方は企業に一般就労をしているが、就労先の障がいへの理解が乏しく孤立してしまっており、精神的な障がいも併発しかねないと心配している。面接で対応した管理職や部門の責任者は障がい者雇用の必要性を理解し、快く対応してくれるものの、障がい者社員と一緒に現場で働く社員の方々には、障がいについての情報がほとんど伝わっていなかったり、また障がいそのものに対する理解があまりないという実態がある。
障がい者の方たちの一般就労に向けてどのような取り組みをして、相談窓口の周知についてどのようなことを行っているのか。
企業の障がいに対する理解の促進はどのようなことを行っているのか？

答弁

就労移行支援事業、就労継続支援事業、就労定着支援事業など、それぞれの利用者のニーズや障がい特性に応じて実施している。また社会福祉士、精神保健福祉士等の資格を持った職員の配置や、職員研修の実施などにより、相談体制の充実に努めている。職場における対人関係についてなど、就労先には相談しづらい事柄については市の相談支援事業、『なんでも・そうだん・やまと』に相談窓口がある。様々な障がいの特性を理解し、障がいごとに必要な配慮を学ぶ、あいサポーター研修を実施し、障がいの理解促進に努めている。あいサポート運動を今後は企業にも参加を呼びかけていく。

要望

国では現行、民間企業での障がい者の法定雇用率は2.3%とされているが、2024年4月より2.5%、2026年7月より2.7%へ段階的に引き上げられることが決まっている。つまり、これから障がい者雇用を増やす企業が増えるとともに、さらに受け入れ企業側の理解を進めないといけない。大和市としても障がいへの理解を深める企業向けの勉強会を開いたり、あいサポート運動をさらに強化することを要望する。



学校での歯科口腔保健の推進を。

質問

新型コロナウイルス感染症も本年5月8日よりいわゆる2類相当から5類へと移行がなされた。常日頃からマスクをして感染予防、または感染を拡大させないという感染症予防学的観点からは一定程度の効果があったと評価をしているが、長く続いたこのマスク生活は多くの利点はあったものの、弊害も存在している。
多くの歯科医師の先生方から市内の子どもたちの虫歯が増えていると聞いている。学校での歯科検診の現状について市の認識はどうか。
また「歯の先進国」フィンランドでは学校給食の食後にキシリトールガムを配布し摂取している。食事をすると口内が酸性に変わるものを、キシリトールガムによって中性・アルカリ性に戻し、ガムを噛むことで唾液の分泌を促し、ブラッシングで取り切れなかった食べカスや歯垢を洗い流す効果もあり、非常に理に適っている方法である。市内の学校給食でも配給をしてみてもどうか。

答弁

歯科健診は小中学校において毎年実施している。小学校において未処置の虫歯があると指摘を受けた生徒数は令和2年度の5.2%から、令和4年度は15.5%と大幅に増加している。増加要因の一つとしてコロナ禍で受診を控えたものと考えられることから、指摘を受けた児童生徒に対しては治療勧告を行うとともに、保護者等に対し治療の重要性を周知している。また各学校で歯科衛生士によるブラッシング指導などを通じた歯の大切さの認識を深める事業等に取り組んでいる。
給食にキシリトールのガムを提供することについては様々な課題があることから、現時点では実施する予定はない。

要望

未処置の虫歯がある小学校の生徒が令和2年度と令和4年度を比較して約3倍に増えてしまっている実態がわかった。ブラッシング指導などを通じて、歯の大切さの認識を深め、地域の歯科医院との連携を是非進めてほしい。
キシリトールのガムを提供することを実施する予定はないとのこと。予算等、様々な問題ももちろんあるだろうが虫歯予防のため将来的に検討することを要望する。



県央4市広域連携の促進を。

質問

市長は選挙中から「これまで大和市が進めてこなかった広域連携に取り組みたい」と述べていた。7月20日には海老名市・座間市・綾瀬市との「4市首長懇談会」が初めて開催された。3市の市長からも高い評価を得ているが、一方で広域連携の抽象的な概念ばかりが先行していて、現実的にどのような連携を図ろうとしているのかが見えてこず、「具体的に何を連携したいのか？」と不安を感じているのではないかと。

県央4市広域連携に向けた市長の考えはどのようなものか。

また、7月に会派で福島県郡山市を視察した。郡山市が周辺自治体に呼びかけ、若手職員間の交流促進事業を実施している。主に35歳以下、または民間からの中途採用でさほど年数が経っていない若手職員を募って毎年勉強会と視察を行っている。参加者たち自らで調査研究テーマの方向性を決め、問題意識を持ち、提案内容を具体化し、最後には報告会を実施して政策提言を行うといった内容。郡山市の取組は古谷田市長が所信表明の際に掲げたボトムアップ型の政策実現や広域連携にも繋がるものではないかと考え、大和市でも周辺市との職員の交流を進めレベルアップを図ってみてはどうか。

答弁

海老名、座間、綾瀬とは市境を接しており、市民にとっても日常の生活圏、経済圏を共有する範囲内であることから、広域連携により効率的・効果的に進められる取り組みがあると考えられる。こうした広域連携の今後の連携に向けた検討を開始できたことは大変有意義であり、大きな一歩である。懇談会ではこれから先の協議に向けた方向性など、基本的な内容について話し合っており、今後具体的な連携について意見交換を行っていく。

市民のため、効率的な行政の推進に向けて、職員間の交流を検討の一案とすることも含め、互いのメリットにつながる連携案について積極的に探っていきたい。

要望

連携内容はこれから意見交換をしていくとのことだが、人口24万人を抱える大和市が積極的に連携したいことをリードしてもらいたい。他の市長達も大和市が何を求めて連携したいのか関心があると感じている。

職員の皆さんの交流や勉強会を通して理解を深めていくことで街づくりの楽しさや成功体験を感じ、モチベーションも高まると思うので積極的に進めることを要望する。



サイバー攻撃に備えたサイバーセキュリティの強化を。

質問

近年、国内外において政府機関等に対するサイバー攻撃が続発している。医療機関を狙った身代金要求型のランサムウェアでのサイバー攻撃も増えている。過去には大阪府や静岡県の医療機関でランサムウェア攻撃を受け、電子カルテや予約情報が暗号化されて、カルテを見ることができなくなってしまった事例がある。本市にも市立病院を抱えていることで懸念がある。市民の健康を守るための重要な医療拠点でもあり、いざ災害が起きた際、医療機関はパニック状態に陥ることは必然で、そのいざという時こそサイバー攻撃を仕掛ける側にとっては一番の狙い時である。

本市では十分なサイバーセキュリティ対策は行っているのか。また、仮にサイバー攻撃を受けてしまった際、どのように対処するかなどの流れを把握しているのか。攻撃を受けた場合を想定して職員の意識向上に向けたリテラシー講習などは行われているのか。

答弁

本市では1日に20通ほどの不審なメールが送られてきている。県と県内市町村が共同で構築したセキュリティシステムにより全て防がれており、被害は生じていない。最新のセキュリティリスクに対応できるよう、適宜更新や設定の見直しを行っている。

全職員にセキュリティ研修や標的型攻撃メールを想定した訓練を毎年実施している。また、サイバー攻撃を受けてしまった場合も想定し、迅速にシステム復旧を行う緊急対応チームの設置とともに職員の行動手順をまとめた緊急時対応マニュアルを備えている。

要望

サイバー攻撃は対策を万全にしても手口は日々巧妙化している。DXがデジタル改革の攻めの政策であれば、サイバーセキュリティ対策は守りの政策である。防御が疎かになってしまえば攻撃者の標的になりかねない。今後も市民の安全を確保できるよう、日々調査研究を続け、必要であれば十分な予算を確保し常にアップデートすることを要望する。



市民が快適に利用できるよう 適切な公園管理を。

質問

市民から「子どもと公園で遊んでいたが、公園内の雑草の生え方がひどく、ごみも散乱していて汚くて楽しく遊べない」との指摘を受けた。実際に現場に確認すると雑草が生い茂って、公園入口も入りづらいほどだった。ゴミも花火や水風船、食べ散らかしたお菓子のゴミなどが散乱していた。市に依頼をしても時間がかかるため、数名にお手伝いを呼び掛け清掃活動を行った。その際、有毒物質が含まれているキョウチクトウが数か所に植えられていた。子どもたちが遊ぶ遊具の傍にキョウチクトウがあり、もし万が一子どもたちが遊び半分で口にしてしまった場合、事故につながりかねない。大和市内には数多くの公園があり、他の公園でも同じように植えられていないか市は把握しているのか。適切な公園管理がなされているのか。

答弁

キョウチクトウについては令和元年に調査した際、10の公園で生長していることを確認し、全て伐根した。市の方針としては公園においてキョウチクトウを確認した場合には伐根をする。管理する公園を再度確認し、随時伐根をしていく。公園の清掃ボランティアについては公園愛護会として登録をすれば活動の助成としてゴミ袋、清掃等の道具や交付金の交付が受けられるので登録してほしい。

要望

キョウチクトウに関して以前の調査から5年経っており、再度調査して適切に管理するよう要望する。公園愛護会についてはボランティアの意欲があって自費で行ってくださる方でも制度自体を知らない市民も多いと思う。制度の広報・周知を要望する。



渋谷6号公園の清掃活動を行いました

身近な活動

上和田地区と下和田地区の境目にある交差点の白線が消えかかっておりましたので、**藤代優也県議会議員（自民党）**に依頼をしたところ、県当局により線の引き直しを実施していただきました。

この道は付近に南大和病院があり、買い物で利用される方々や通勤・通学される方々の利用も多い道路ですが、裏道として車両の通行も多くあり、線が消えかかっていることで一時停止をしないまま通行する車も目立って大変危険に感じておりましたため、改善を要望いたしました。

（※道路の白線は神奈川県（警察）の所管であるため、県の予算による執行となります。）



Before

After

プロフィール | Profile



- 昭和57年12月17日 O型
- ◆上和田保育園卒園
- ◆大和市立上和田小学校卒業（大和隼球団所属）
- ◆大和市立上和田中学校卒業（卓球部）
- ◆県立大和高等学校卒業
- ◆早稲田大学政治経済学部政治学科卒業
- ◆民間企業と社会福祉法人を経て、衆議院議員（甘利明）私設秘書
- ◆衆議院議員（甘利明）公設第一秘書
- ◆参議院議員（島村大）公設第二秘書
- かながわ自民党政治大学校第12期修了
- 早稲田大学 大和稲門会副幹事長
- 自民党大和市連合支部広報局長

【現在】

- ◆文教市民経済常任委員会委員
- ◆基地対策特別委員会委員
- ◆広報委員会委員
- ◆前市長による公共工事のやり直しに関する調査特別委員会委員
- ◆広域大和斎場組合議会議員

